

# 巻頭言

## 「運転免許証の失効」

理事長 新谷友良

何かの拍子に「写真の付いた身分証明証を」といわれることがあります。運転免許証を見せるとスムーズに事が進みます。「クレジットカードしかないのですが…」という、「マイナンバーでも構いませんよ」といわれることも多くなりました。たまに障害者手帳を見せることがあります。現在の障害者手帳は取り出すのに大きすぎて不便なので、カード式に変更の申請をしたいと考えています。

運転免許証の簡便さを身分証明用途に求めていたわけではないのですが、もう車を運転することもないとそのままにしておいたら、更新の日が過ぎて失効してしまいました。手元の運転免許証で運転したのはほんの数回です。運転免許証の有効期間が過ぎても1年以内であれば、仮免許を取得できるそうですが、「高齢者運転免許自主返納サポート協議会」という組織が生まれ、「高齢者運転免許自主返納ロゴマーク」も現れて、返納圧力が強まっているのに癪な気持ちがあり、高齢者講習を受けるのも面倒くさいのでこのまま放置しておくつもりです。

車の免許は、日本の厳しい自動車教習を受けて取ったわけではありません。アメリカに長期出張しているときに、実技の個人レッスンを2週間受けました。そのあと、試験の予定日に同僚の運転の車で区役所のようなところに出向き、その車で試験官と一緒に30分程度住宅地をぐるぐる回って、少し待っているとめでたく免許証の取得完了です。その時の運転免許証を見ると写真の付いたクレジットカード大のものをラミネート加工した非常に粗末なもので、それに比べて日本の運転免許証は、厚みもあって随分立派だなと、二つの免許証を比べています。

アメリカでの運転免許証の威光は大変なもので、銀行口座の開設などIDが必要な手続きには大抵は運転免許証が必要です。私が駐在していた州ではスーパーマーケットやガソリンスタンドでカードを利用するときにも運転免許証が必要でした。そんな大切な免許証がこんな安直な仕組みで取得できて、こんな粗末な体裁のものでよいのかと思ってしまうのですが、自動車の運転ができないと毎日の生活が困難なアメリカの社会では、運転免許試験は「落とすための試験」ではなく「住んでいる町のメンバーになるための通過儀式」であることがよく納得できる仕組みのように思えます。